

ふれあい散歩道10選

1, 「櫻狩き・・・」の句碑：浄土宗嶺松山弘願院昌清寺・・・{東京}

- ・ 建立：旧碑：寛政8年【1796】安彦 再建碑昭和59年9月工藤道誉竜順
- ・ 場所：東京都文京区本郷1-8-3：【東京メトロ丸の内線本郷3丁目駅下車徒歩10分。



【句 碑】 櫻狩き ときや日々に 五里六里

「メモ」当寺は浄土宗嶺松山弘願院昌清寺と称され、元和元年（1615）の創建である。

開祖は朝倉きよ（お清の方）、駿河大納言忠長（家光の弟）の乳母である。父二代将軍秀忠と母お江は忠長を寵愛し、忠長に次期将軍職を譲ろうと考えた。しかし兄家光の乳母春日局が家康に直訴するに及んで、将軍は家光に決まった。忠長は駿河城主となったが、なお大坂城主を要請したため家光の怒りにふれ、領地は没収され、高崎城に幽閉され自害した。寛永十年（1633）忠長28歳であった。

忠長死後、忠長夫人お昌の方（信長の曾孫）は剃髪し松孝院と号した。乳母のお清も剃髪し、お昌の一字をもらい、昌清尼と称した。松孝院は忠長清に昌清寺で忠長の供養をさせた。（文京区教育委員会掲示より）

2, 「麦の穂・・・」の句碑：神奈川県川崎行政センターの斜め向かい

- ・ 建碑：文政13年（1830）庚寅8月
- ・ 碑材：自然石
- ・ 場所：川崎市川崎区日進町1-1〔JR南武支線浜川崎線・京浜急行ともに「八丁畷駅下車」徒歩2分〕・・・{川崎}



【句 碑】 麦の穂を たよりにつかむ 別れかな

3, 「世の人の・」の句碑：浄土宗清源院・・・{横浜}

- ・ 建立：天保年間（1830～1843）推定 盈稲舎味岡
- ・ 場所：横浜市戸塚区戸塚町4-9-7：〔JR横須賀線戸塚駅下車 徒歩約15分〕



{句 碑} 世の人の 見つけぬ花や 軒のくり

徳川家康公の側女お万の方は四十余才で仕を辞し、彦坂小刑部元正に預けられ岡津の草庵に閑居していました。年家 公がご他界の後、この像を安置するため勝地を求めていたところ、幸い当寺地を得たので、元和六年（1620年）に一字を創建しました。清源院の名は、お万の方の法号、清源院殿閑誉理崇大禅定尼に依っています。静かな境内には、松尾芭蕉の句碑、江戸時代には、寺の門前を通る参勤交代の大名行列が、槍を横にして通ったと伝えられています。

4, 「夏草や・・・」の句碑：鎌倉市由比が浜1丁目 六地藏交差点

- ・ 建立：天明6年5月（雪下住松尾衛右衛門百遊）・・・ {湘南}
- ・ 場所：鎌倉市由比が浜1-9-4：〔江ノ島電鉄和田塚駅下車 徒歩5分〕



〔句 碑〕 夏草や つはものどもの 夢の跡

〔メモ〕 処刑された者たちの霊を弔う六地藏：六地藏交差点には、六地藏が祀られかつて付近にあった刑場において処刑された者たちの霊を慰めます。
長谷、大町、名越、由比が浜、鎌倉駅などに至る道が交差する地点でもあります。

5, 「はこねこす・・・」の句碑：大磯町役場隣 鳴立庵・・・ {西湘}

- ・ 建立：鳴立庵啄 安永9年10月12日
- ・ 場所：神奈川県中郡大磯町鳴立沢1289：〔JR東海道本線大磯駅下車徒歩5分〕



〔句 碑〕 はこねこす 人もあるらし けさの雪

6, 「松杉を・・・」の句碑：海南神社〔祭神〕藤原資盈（ふじわらすけみつ）

- ・ 建立：嘉永5年（1852）9月 三徑蕉露 書・・・ {横須賀・三浦}
- ・ 場所：三浦市三崎4-12-11：京急線三崎駅下車 京急バス・三崎港行き三崎港下車徒歩2分



〔句 碑〕 松杉を 誉めてや風の かおる音

7, 「世にさかる・・・」の句碑：時宗〔浄土教の一宗派〕無量光寺 本堂右

- ・ 建立：文化5年（1808）推定 当山52世明蓮社他阿上人霊隋・・・ {相模原}
- ・ 場所：神奈川県相模原市当麻578：〔JR相模線原当麻駅下車 徒歩約15分〕



{句 碑} 世にさかる 花にも念仏 申しけり

8, 「ひばりより上に・・・」の句碑：阿夫利林道口から「いより峠」 三叉路、
阿夫利林道口より約2時間・・・ {伊勢原・大山}

・ 建立：年代不詳

・ 場所：小田急・小田原線伊勢原駅大山ケーブル行きバスにて終点で下車。



【句 碑】 雲雀より 上にやすらふ 峠かな

9, 「広島を訪ねて」：番外編・・・昭和20年 8月 6日 午前8時 15分



・ 晴れ上がった夏空を引き裂いて、広島デルタにせん光が走った。
「青白い光」「上空にまっ赤な火の玉」「数百万個のフラッシュをたい
たような」「突然窓全体が黄色にぬりこめられて」・・・警戒警報解除
で防空壕から出てきた人たちも少なくなかった。人類初の原子爆弾
がさく裂したのはこの時であった。

生き残った人たちは燃えさかる業火の間をぬって逃げたが、行けども行けども大地は焼け
ていた。助けて下さい」「子供が子供が・・・・その声も強い火勢にかき消されて行った。

〔原爆資料館資料より引用・以下：略〕

10, 輝け杉の子・・・ {川崎・伊勢原 (大山)}



川崎市生田緑地枳形山「輝け杉の子」



小田急本線 伊勢原 大山の「輝け杉の子」

1944年（昭和19）の夏、国の考え方を受けて、東京だけでなく神奈川県でも大都市である川崎・横浜・横須賀の三市で、学童を集団疎開させることが決められた。川崎市で、35校あった国民学校のうち、24校の3年生以上6年生まで、7千人余りの学童が171か所に分かれて疎開することになった。一番多くの学童を入れてもらう大山町では、3千人以上をむかえると町の人口が急に増えるので、宿舎・食料・燃料から汚物の処理まで色々な問題が持ち上がっていた。しかし、大山町の人々の理解と協力により、ようやく受け入れてもらえることになった。子どもを受け入れられる施設が多く有ることだった。

こうして学童疎開は1945年（昭和20）9月まで続いた。 {以下略}